

						授業コード*	3042		
授業科目	成熟期看護方法5 (健康障害と治療の特徴に応じた看護方法) Nursing of Adults 5 (Nursing with Medical Treatment)	責任 教員	北村 直子 布施 恵子	単位数	1	科目区分	必修	科目履修	可
				時間数	30	開講セメスター	3		
目的と目標	<p>目的：疾患や治療によって危機的状況にある成熟期の人を対象とした看護方法について理解する。</p> <p>目標：1. がん患者とその家族への看護方法について理解する。 2. 死を迎える人とその家族への看護方法について理解する。 3. 周手術期にある人とその家族への看護方法について理解する。</p>								
回数	学修課題	内容並びに方法						担当教員	
1	疾患や治療によって危機的状況にある人の看護の概説	疾患や治療によって危機的状況にある成熟期の人と家族への看護の特徴を概説し、本授業への導入を図る。(講義)						北村	
2	がん患者とその家族への看護①	*わが国の死亡原因第1位が「がん」であることから、第2回～第6回ではがん患者と家族への看護を中心に授業を行なう。 ・わが国のがん対策の現状 ・がんの特徴、がん患者を取り巻く状況 ・がん予防(ワクチン、遺伝子診断など)と看護(講義) ・授業内で関心を持ったことについて調べてレポート提出						布施	
3	がん患者とその家族への看護②	・がん治療を行いながら生活する人と家族への看護 ・がん治療に関わる意思決定を行う患者を支える看護(講義) (がん治療と仕事の両立支援、治療の継続や中断など)						布施	
4	がん患者とその家族への看護③	・がんと共に生きる人と家族への緩和ケアと看護 ・がん患者と家族の全人的苦痛に対する看護(講義・演習)						布施	
5	死を迎えるがん患者とその家族への看護	・がんによる死を迎える人と家族の特徴と看護 ・患者が存命中から行う家族看護、そして遺族ケア(講義)						布施	
6	2～5回目の総括	筆記試験で習得状況を確認し、グループワークでがん患者とその家族のヘルスケアニーズと看護の理解を深める。						布施	
7	周手術期看護概説	手術療法の特性 手術療法を受ける患者・家族への看護の特性(講義)						北村	
8	手術期の看護	・手術侵襲 ・麻酔、人工呼吸、手術体位による影響(講義)						北村	
9・10	手術後期の看護①術後合併症	・呼吸機能、循環機能、消化機能、精神機能への影響と合併症 創傷治癒過程 ・術後感染(講義・演習)						北村	
11	手術後期の看護②生活行動の拡大	・術後疼痛 ・早期離床(講義)						北村	
12・13	手術後期の看護③術後機能障害	・術式と機能障害 ・日常生活、社会生活への影響 ・看護師間・他職種間の連携 ・社会資源の活用(講義・演習)						北村 橋本	
14	手術前期の看護	・意思決定 ・情報提供 ・危機理論 ・リスクアセスメント、術前オリエンテーション(講義・演習)						橋本 北村	
15	7～14回目の総括	筆記試験を行ない習得状況を確認する。(講義・試験)						北村	
評価方法	<p>前半(がん看護)：試験70%、講義・演習レポート30%</p> <p>後半(周手術期看護)：試験60%、演習成果物40%</p> <p>前半、後半それぞれの評点が6割以上の場合に合格とする</p>								
参考文献	<p>指定図書： ナースンググラフィカ 成人看護学②：健康危機状況/セルフケアの再獲得(安酸史子 鈴木純恵 吉田澄恵編)メヂカ出版 看護学テキストNICE 急性期看護I-概論・周手術期看護(林直子 佐藤まゆみ編)南江堂 ナースンググラフィカ 成人看護学⑥：緩和ケア(宮下光令編)メヂカ出版 ナースンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学(林正健二 編)メヂカ出版</p>								
事前準備	<p>1～2セメスターで学んだ専門科目・専門関連科目の復習が必要である。特に、人体の物質交換システム、人間の環境応答システム、自己保存・種族保存システムで学んだ人体の構造と機能について理解を深めておく。 同時期に開講する治療学概論で学ぶ薬物療法(医薬用麻薬・麻酔)、手術療法の知識を確認しておくこと。</p>								
受講要件									